

三浦病院長 2期目の抱負

■ 1期目（2015年4月～2018年3月）の総括および 2期目の目標や展望を教えてください。

私が病院長になったのは2015年4月です。それから3年間は、1年目より2年目、2年目より3年目と右肩上がりに病院収入は増え、経営がうまくいったという手ごたえはあります。しかし、診療報酬の改定や愛媛大学全体の財政状況などの外部環境の影響や、当院のキャパ的な問題等で、年々伸び率は鈍化傾向にあります。

2期目の最初の年にあたる今年度は、診療報酬・介護報酬の同時改定など医療改革が重なっており、また、来年には消費税10%の導入も控えています。さらに、働き方改革は医療関係者も無関係ではなく、2期目は経営において大変厳しくなると考えています。

私が病院長になってから、年間の手術件数が1000件以上増加しましたが、麻酔科医師や手術部の看護師もオーバーワークとなっており、また、手術室も飽和状態で手術件数の増加も頭打ちになっています。スタッフや手術室を増やすことには限りがあるため、他病院と連携し、サテライトセンターを設置することで手術件数を増やし、病院収入の増加に繋がりたいと思います。

例えば人工関節の手術は半年待ちになるほど、手術を必要としている患者さんが多くいらっしゃいます。そういった地域の皆さんが必要とする手術を、多く実施できる病院であるために、戦略的に大胆な選択と集中を実施していきます。



■ 2期目から就任した3人の副病院長について期待されていることは？

総務・診療担当となった杉山隆先生（産婦人科教授）は、以前所属していた三重大学や東北大学で、優れた母子周産期ネットワークを構築したという実績があり、筆頭副病院長の役割をお願いしました。関係者をまとめる力をお持ちなので、難しい場面でも力を発揮してくれるはずです。

また、経営担当を國枝武治先生（脳神経外科教授）をお願いしました。私も含め、病院の医師が経営に携わることはそうそうありませんが、國枝先生は愛媛大学にきて2年であり、新鮮で斬新な視点で経営を行ってくれると思います。

橋渡し研究推進担当の今井祐記先生（病態生理学教授）は、整形外科で小児整形のエキスパートでした。また、現在、基礎系の研究でも非常に優れた業績を上げられています。基礎系、臨床系両方の経験が豊富であるため、橋渡しには最適な先生だと考えています。

新任の副病院長は、新たな視点で当院の運営に携わってくれるでしょう。

■ 患者さんへのメッセージを。

当院は「患者から学び、患者に還元する病院」を基本理念にしています。我々は患者さんを診療しながら、本当に学ばせていただいています。我々が学んだことを治療という形で還元したいという気持ちで、全職員は一致しています。大学病院なので敷居が高いイメージがあるかと思いますが、それらを払拭する取組みも実施していきたいと考えています。ぜひ安心して当院を受診してください。